

さいたま市立大谷場中学校 各教科の内容と評価観点 [国 語]

教科の目標	○基礎的な学習を活かして、表現力を身に付ける ・語彙力を高め、話し方の基本を身に付けることができる（１年） ・組み立てを意識した文章を書いたり、わかりやすく発表したりすることができる（２年） ・自分の考えを人にわかりやすく伝えたり、述べたり、書いたりすることができる（３年）
-------	--

	項目 観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3 年	評価の重点	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

	単元・教材・題材 等	学習目標・学習内容・学習活動 等	評価の方法
1 学 期	○国語学習オリエンテーション ○『見えないだけ』『春に』『立ってくる春』『やわらかな想い』 ○『なぜ物語が必要なのか』 ○『旅への思い（芭蕉とおくのほそ道）』 ○硬筆展への取り組み ○『メディア・リテラシーはなぜ必要か？』 ○暑中見舞いを書こう ○1学期の国語学習を振り返ろう	・第3学年国語学習の目標、進め方 ・ファイルやプリントの使い方 ・語句の用い方がどのような効果を生んでいるかなど、語句の選択や配列など書き手が行う表現上の工夫に注意して読む ・様々な文章を読むことを通して、そこに表れているものの見方や考え方から、人間、社会、自然などについて思いを巡らせる ・「俳文」の特徴をとらえる ・自分の考えを述べる文脈の中に古典を取り入れる ・行書の特徴をつかむ ・手本をみながら丁寧に視写する ・1学期の各単元を振り返り、自己評価をする ・1年から学んできた手紙の書き方を確認し、筆ペンを使用してはがきを書く ・時候の挨拶や文の構成、相手に対する適切な言葉の使い方を工夫する	年間を通して ・ワークシートの内容 ・レポートの内容 ・提出物の状況 ・暗唱・音読テスト ・定期テスト ・グループ学習の状況 ・発表・プレゼンテーション等の内容 ・書写作品 ・作文の内容 ・課題・宿題への取り組み など

2 学 期	○『薔薇のボタン』・『語り継ぐもの』・付属語・文法の復習 ○『私』 ○『初恋』・『言葉の力』 ○俳句の味わい ○『和歌の調べ（万葉集・古今和歌集・新古今和歌集）』『古典の歌、現代の歌』 ○『風景と心情（漢詩を味わう）』 ○『AI は哲学できるか』・敬語・文法の復習 ○『async-同期しないこと』 ○『最後の一句』・文学史の復習 ○書き初め展への取り組み ○年賀状を書こう ○2学期の国語学習を振り返ろう	・様々な文章を読むことを通して、そこに表れているものの見方や考え方から、人間、社会、自然などについて思いを巡らせる ・助詞や助動詞の種類と働き ・登場人物の設定の仕方について自分の考えをもつ ・作品の展開や内容と場面や登場人物の設定とのかかわりをとらえ、文章全体への理解を深める ・印象的な言葉を取り上げ、その効果について考える ・俳句の形式・リズム・季語・句切れ等 ・昨年までの学習を踏まえて文字の伝達性や表現性など表現効果を考えながら書く ・歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむ ・和歌の情景や心情、背景や作者などについて調べ、鑑賞文を書き評価しあう ・作者の当時の立場や置かれていた状況等を知ることを通して、作品の世界をより実感的にとらえる ・ある事柄について自分の立場や根拠を明確にした考えをもち、文章全体を受けて自分の意見をもつ ・興味をもった作家の複数の作品を読み味わったり、幅広い分野の文章を読む機会をもったりする ・行書の特徴を理解し、字形を整え、文字の大きさ、配列、配置を意識して書く ・行書の学びを生かして、筆ペンを使用してはがきを書く ・時候の挨拶や文の構成、相手に対する適切な言葉の使い方を工夫する ・2学期の各単元を振り返り、自己評価をする	
3 学 期	○『故郷』・文法の復習 ○『持続可能な未来を創るために』・課題作文 ○3学期の国語学習を振り返ろう	・展開や登場人物の描き方に注目して学習の課題をもつ ・作品について、考えたことを文章にまとめ、読み合う ・異なる文章を選んだグループで表現の特徴や効果について話し合う ・自分の意見を効果的に伝えるために構成を考える ・3学期の各単元を振り返り、自己評価をする	